

勉強は将来の 自分のため

緊急企画です!! 今年のノーベル化学賞に決まった旭化成の吉野彰さん(71)が、読売KODOMO新聞編集室の取材に応じてくれました。どうしたら吉野さんみたいな科学者になれるの? 子どもの頃は何をしていたの? 必見のインタビューをどうぞ。

野口英世さんに憧れ

小学生のころから化学に興味を持ち始めたという吉野さん。どんな子ども時代だったのか、質問してみました。
—子どものころ、どんな遊びをしていましたか?

私が生まれたのは大阪府吹田市の千里山という地域です。当時は竹やぶに囲まれた自然豊かな場所でした。トンボやカブトムシ捕りで毎日遊び回っていましたよ。

中学では水泳に熱中しました。部活ではないですが、サークルみたいな感じで、学校のプール開放日に友だちとタイムを計ったりしていました。クロー以外のタメですが(笑)。

—憧れの人はいましたか?

(アフリカで黄熱病の研究をした)野口英世さんは自分にとってヒーロー。野口さんのようになりたいと、医者になることを考えたこともありました。

ノーベル賞・吉野彰さんインタビュー



インタビューの後、吉野さんが読売KODOMO新聞の読者に向けて色紙にメッセージを書いてくれました。この色紙を読者にプレゼントします。詳しくは21頁をご覧ください。

インタビューに答える吉野彰さん(10月17日、東京都千代田区の旭化成本社で)＝秋本朋子撮影

世界を変える 研究の面白さ

今回のノーベル賞のこともしっかり聞いてみました。どうすれば勉強ができるようになるのか、吉野さんの言葉の中にヒントがあります!!
—化学の魅力とは?

化学は「化ける」という字の通り、研究によって何が生まれるかわかりません。あの日突然、とんでもないものが出てくることもある。それが一番面白いです。
—リチウムイオン電池はITの世界を変え、これからは環境問題も変えていく可能性を秘めています。研究の醍醐味は、単に売れるのではなく、それが世界を変えることです。

—夢をかなえるために大切なことはなんでしょうか。歴代のノーベル賞受賞者が受賞した研究を始めたのは、平均で35歳前後です。私のリチウムイオン電池の研究のスタートもその頃でした。
—親や先生に無理やり押し付けられて勉強するのではなく、未来の自分のために勉強してください。それまでに、いろんな勉強や経験、エネルギーをいっぱいためて、大人になって爆発させてください!

科学誌にワクワク

小学生のころ、先生にすすめられた本で化学に興味を持った吉野さん。ほかに影響を受けた書籍として吉野さんが挙げたのが、95年の歴史を持つ月刊誌「子供の

科学」(誠文堂新光社)です。身近に起きる現象のワケを知ることができる特集が大好きだったという吉野さん。「(ふるくで)組み立てキットがついとってね、輪ゴムをねじって進む船とか……」となつかしそうに振り返っていました。



色紙を持つ吉野彰さん

*「ワクワクWORK」国連職員のご紹介は11月28日号に掲載します。